

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 4 年 3 月 10 日

事業所名 ネバーランドメイト

保護者等数(児童数) 18名 回収数 割合 82 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	1				活動スペースの説明を行う。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	10			2		細やかな説明を行う
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	2		3		事業所室内環境の説明を行う。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	12					継続していく。
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	11	1				活動内容を周知していく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	2	6		コロナ禍の中で安全に交流できる機会を増やしていく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12					継続していく。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12					継続していく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11	1				面談の頻度について説明をしていく。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	5	2	3	コロナ禍で開催がなくなり残念。	以前は、年に2回の保護者会を開催したが、コロナで集合帯が難しい為、オンラインの活用にて保護者同志の情報を共有していく
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11		1		メールでの伝達と良い場合と直接話し合えるべき案件に関して考え、対応して欲しい。	今後は保護者様への周知、説明を適切に対応していく。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12					継続していく。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10			2		事業所HPについて周知をしていく。
14 個人情報に十分注意しているか	11	1				取り扱いについて細やかに説明を行う。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	9	2		1		ご契約時に説明を行う。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9			3		災害について説明を行う。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11			1		より良い支援を検討していく。
	18 事業所の支援に満足しているか	12					継続していく。

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公

討議年月日:令和 4 年 3 月 7 日

公表:令和 4 年 3 月 10 日

事業所名 ネバーランドメイト

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		デイルームを2階・3階と分離型にしている。	継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	9		非常勤(児童指導員)の配置	常勤数を増やしていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11		適切ではあるが、階段に注意を行っている。	階段の移動の際には、注意をはらう。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11		業務ミーティングを常勤者、非常勤者の2部制を行っている。	情報を共有し、支援を計画し、実践・改善を行い質の高い支援を目指す
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11		アンケートの実施を行っている。	継続していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11		本年度から掲載	開所初めての掲載となる。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	1	法人で検討中。	外部評価を実施して業務改善につなげていく。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11		初級・中級など全員で研修に参加している。	継続していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11		<small>お子様・保護者様とアセスメントにて確認をし、ニーズに合った支援に基づき計画書の作成を行っている。</small>	多面的、多角的な視点で作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11		使用している。	継続していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	11		事業所内で行っている。	充実した内容となるよう、チームで考えていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11		季節の行事など取り組んでいる。	子どもの様子や、季節感を踏まえその時に合った活動に取り組んでいく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11		お子様の年齢に応じた課題に取り組んでいる。	長期休暇などでボール遊びを通して着替えなどの日常の自立を支援していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11		本人の願いをかためるために、具体的な支援内容を盛り込んでいる。	継続していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11		午前:常勤会議午後:非常勤会議を行っている。	情報共有、確認事項、配慮点など強化していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11		サービス提供後に振り返りを行い、伝達共有している。	1日の振り返りを行い、翌日の支援に活かせるよう日報に細やかに記入、共有と把握に努めていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11		ミーティング記録を日報にて行っている。	その日の支援と結果のみを正当化するのではなく、環境等も含め日々検証していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11		計画の交付、サービスの提供、定期的に行っている。	継続していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	11		ガイドラインの趣旨に基づき組み合わせている。	放課後等デイガイドライン資料をチームで共有していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11		管理者・児童発達支援管理責任者として成すべき業務を行っている。	継続していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11		学校の先生と情報を共有し、連携している。	継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11		地域交流も踏まえ、近くの医院と医療協定の契約を毎年更新している。	医療的ケアを必要とするお子様はほぼいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11		情報を共有している。	長期的な支援ができるよう共有理解に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11		法人内で年齢別での移行システムを行い、フェイスシートに基づき情報の共有を実施。	お子様の特性が作業所や就労支援事業所で発揮できるよう情報の共有を課題としていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11		連携している。	継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	2	コロナ禍の為、交流は無し。	野外活動や、地域での活動に参加する機会を増やして行く
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	11		所属している区での協議会・児童部会に参加している。	継続していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11		お子様・保護者様の声に耳を傾け、適切な課題理解の意識を持っている。	送迎時や面談等で保護者様と共通理解を図り、指導の統一を行っていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	11		年に6回のペアレント研修を行っている。	ペアレント講習を令和4年度も計画・予定。(ペアレント研修修了者配置)	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11		ご契約時に行っている。	入所時に質問、不明点をご理解していただけるまでしっかり説明を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11		保護者の視点で捉え、訪問支援を行っている。	保護者様と悩みを共有し、一緒に考え寄り添った対応を心がけていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	1	コロナ禍の為、保護者会は開催していない。	以前は、年に2回の保護者会を開催したが、コロナで集合帯が難しい為、オンラインの活用にて保護者同志の情報を共有していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	11		苦情窓口の連絡先と対応時間を記載して対応している。	日々利用者様の立場で物事を考え、対応し、苦情があった際は、同じ事の繰り返しのないよう、未然防止策を考え、実施していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11		区の事業所データや、お便りにて掲載している。	HPIにてブログ発信を進めていく。
	35	個人情報に十分注意している	11		従業員へ守秘義務同意書を行う中で、保護者様への周知をしている。	継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11		情報を共有している。	利用時の様子を保護者様に伝わるよう、1日の様子を写真に撮り、配布している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	1	地域交流を行っている。	近隣のお店などにて職場体験など地域交流を深めていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11		契約時に行っている。	事業所しおりなどで細やかな説明をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11		月に1度の訓練をお子様と行っている。	活動内容に防災訓練を取り入れ、緊急時にお子様パニックにならないよう日々訓練を続けている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11		虐待について情報を共有している。	虐待委員会を配置し、研修の機会を増やしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11		身体拘束同意書と説明を行っている。	保護者様への説明を怠らず、ご理解と同意書をいただき、計画書にて記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	1	情報の共有をしている。	継続していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11		記録、改善を共有している。	同じことが繰り返されないよう、共有していく。